

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)

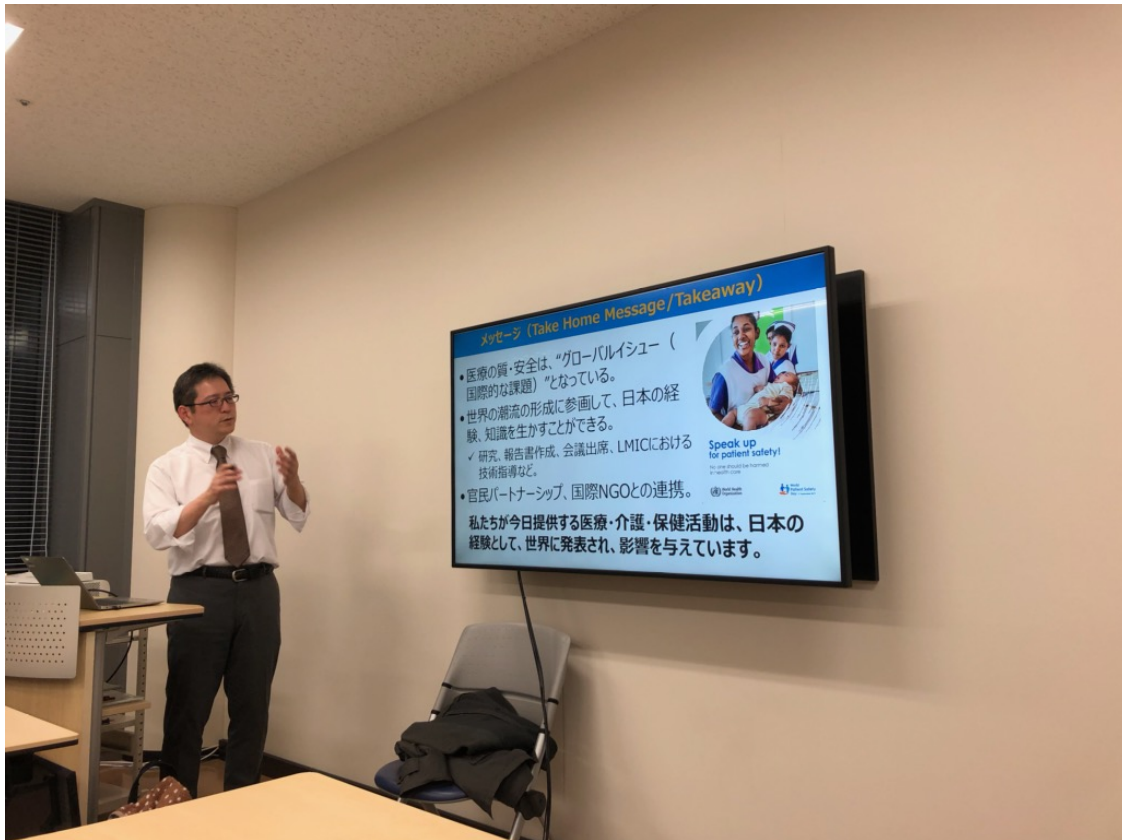
(医歯理工学先端研究特論)

記

1. 講師 (公財) 日本医療機能評価機構 理事
九州大学病院医療安全管理部 教授
厚生労働省 国際医療安全対策推進参与
後 信 先生
2. 演 題 医療安全の世界的潮流 2020
3. 日 時 2020年2月20日(木) 18時00分～20時00分
4. 場 所 M&D タワー6階 共用セミナー室12
5. 要 旨

医療安全は近年各国のハイレベルの関心が高まっており、グローバルイシューとなっている。昨年の講義で解説した閣僚級患者安全サミットは2019年にはサウジアラビアで開催された。本年11月に同国で開催されるG20首脳会合の議題ともなる予定である。WHO、ISQua、IHI、等の取り組みも盛んである。これらの組織の取り組みと相互の関連性そして私達が日々提供するヘルスケアとの関連性について解説する。





日本医療評価機構の後先生には、同郷の好で平成 25 (2013) 年度から大学院講義をお願いしてきました。最初は、医療事故・ヒヤリ・ハット事例の情報収集による原因分析のお話から始まり、我が国の医療事故データベース構築 (Investigation/Prevention system) や産科医療の無過失補償制度 (No-fault compensation) など、医療の質と安全を高めるための重要な事業の立ち上げの経緯やその後の経過などについてお話して頂きました。

この数年は、後先生は閣僚級の患者安全サミットでもご講演されるなど WHO などでも中心的役割を果たされるようになり、その中で我が国が取り組んできた上記のような医療安全への取り組み事業が欧米諸国も含め世界中からもお手本とされるようになってきたというお話を拝聴しました。昨年より WHO が「世界患者安全デー」 (World Patient Safety Day) を創立し、9 月 17 日を記念日とした経緯も詳細にお話し頂きました。

もはや患者安全はグローバル・イシューであり、(非常に謙遜されていましたが) 我々が今日実践している医療・介護・保険活動は日本の経験・知識として世界の潮流の形成に参画できる、と力強く締めくくられました。20 年以上、い

ろいろな医療事故を教訓とし、地道に根気強く、医療安全と質の向上に取り組んでこられた後先生ならではの言葉で、我が国としても誇るべき業績と感銘を受けました。とは言え、**Patient safety is "journey"**, 終わることのない不断の努力が求められている、と戒められることも忘れない後先生でした。

7年前には思いもしなかった流れですが、当院も医学部附属病院との統合が来年秋を目処に予定され、特定機能病院として今より格段に高度の医療安全への取り組みが求められています。医療安全に関しては、我が国の政策にも盛り込まれるようになりましたが、欧米にキャッチアップという時代ではなく、むしろ日々の丁寧な診療の実践の中に医療安全対策の経済性も含めた解決策が含まれているというのは大きな励みになるところです。キーワードは「患者中心の医療」と「No-blame culture の醸成」（東京宣言 2018）だと思います。

（文責：豊福）



本学医学部附属病院 医療安全管理部の工藤部長にもご参加頂きました。後先生は緊急で WHO の web 会議が要請されたとのことで、懇親会も出来ず、ちと残念でした。